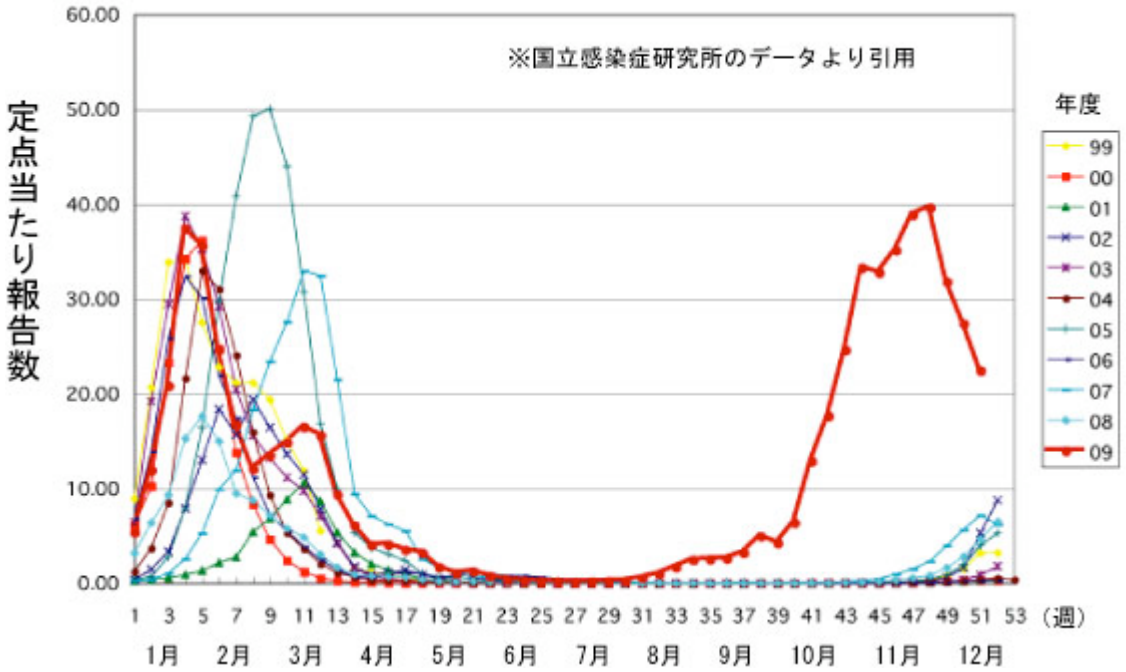
Q 問題

『インフルエンザワクチンを早めに打つのってなんでだろう？』

A 解説

近頃、ニュースや新聞で“インフルエンザワクチン”ってよく聞きますよね。ところで“ワクチン”ってどんなものか知っていますか？ワクチン注射を打つとインフルエンザにかからなくなる？ってことはインフルエンザの薬なのか・・・？そこで今回はワクチンについてちょっと勉強してみましょう。

皆さんも知っている有名なワクチンとしてインフルエンザやＢＣＧなどがあります。でもワクチンと一言で言っても、実はいろんな種類があります。ＢＣＧは生ワクチンといって病原体の毒性を弱めたものを抗原として使うものでウイルス自体はまだ生きています。インフルエンザなどは不活化ワクチンといって、鶏の卵を使ってウイルスを増やし、集めたウイルスをホルマリンなどで殺したものを抗原として使うものです。つまりワクチンとは悪さをしなくなったウイルスのことなのです。このワクチンを健康な人に接種すると、体の中で病原体に対して戦うことができる免疫ができてその病気にかかりにくくなるのです。しかし、免疫はすぐにできるわけではなく、できるまでには数週間～１ヶ月くらいかかります。ですから病気にかかる前に十分な免疫を作るために早めに打つのです。下のグラフを見ると新型インフルエンザが流行した 2009 年をのぞくと、大体１１月末頃から季節性インフルエンザが流行りだすのが分かります。だからインフルエンザワクチンの予防接種はその約１ヶ月前の１０月頃から始まるのです。また、ワクチンはその病気を治す薬ではないので病気にかかってからワクチンを打っても意味がありません。また、ワクチンを打ったからといってインフルエンザにかからないという訳ではないので、うがいや手洗いを心がけるなど日頃から注意することが一番です。

（回答者：佐口健一）